



機構60年と愛知用水

～豊かな水で地域の生活・産業を支える～



ききました。そこで、この記念の年にあたり、愛知・豊川用水振興協会の達志保さん、愛知用水供給地である知多半島のJAあいち知多の山本組合長のお二人に愛知用水についてのお話を伺いた

愛知用水の歴史と夢へ向け 取り組んだ人たち

副理事長

今年は、1962年（昭和37年）5月に水資源機構の前身である水資源開発公団が発足して60年になります。水資源開発公団は、1968年（昭和43年）に愛知用水公団と統合して、2003年（平成15年）に独立行政法人水資源機構へ移行し現在に至っています。この60年間、機構は、水資源開発水系として指定されている利根川、荒川、木曾川、豊川、淀川、吉野川及び筑後川の7水系においてダム、水路、湖沼開発施設等53施設を完成させ約6,700万人が住む地域で新規開発用水の約8割を供給するとともに、洪水被害の軽減・防止という重要な使命を果たして



機構60年と愛知用水

～豊かな水で地域の生活・産業を支える～

60

水資源機構60年 記念対談

山本 和孝さん

あいち知多農業協同組合代表理事組合長

日置 秀彦

独立行政法人水資源機構 副理事長

達志保さん

（公財）愛知・豊川用水振興協会 研究員

CONTENTS

- 02 特集 水資源機構60年記念対談
機構60年と愛知用水
～豊かな水で地域の生活・産業を支える～
独立行政法人水資源機構
副理事長 日置秀彦
あいち知多農業協同組合
代表理事組合長 山本和孝さん
（公財）愛知・豊川用水振興協会 研究員
つじ 達志保さん
- 10 トピックス 水の日・水の週間の紹介
- 14 トピックス カスリーン台風来襲75周年
- 15 トピックス 気象キャスターネットワークとのオンライン交流会
- 16 連載 気象キャスターが解説！天気のみかた
第30回 九州はひとつ。
でも宮崎だけ天気が違う？！
気象キャスターネットワーク 酒井晋一郎
- 18 水機構ニュース
- 20 第37回
“水とのふれあい” フォトコンテスト
入賞作品
- 24 モニター様の声・施設紹介・編集後記

食糧危機を打開することだ」という気運が徐々に湧き上がり、愛知用水の生みの親とも言われる久野庄太郎（のしょうたろう）さんの宿願でもあった。木曽川の水を知多半島へ「というような執念が、愛知用水建設の気運を盛り上げ、その中で1955年（昭和30年）に愛知用水公団が設立され、1957年（昭和32年）には牧尾ダム・愛知用水取水口・水路建設を内容とする愛知用水事業が開始の運びとなり、建設工事は地元の期待に応えてわずか4年後の1961年（昭和36年）に完了し通水を開始しています。それでは最初に、達さんからコメントをいただければと思います。



達 研究員 私は現在、愛知用水の歴史資料の整理をしています。もともと私は明治用水の上流、豊田市域を流れる枝下用水（しだれ）の歴史の研究を15年ほどしてきました。私は民俗学が専門なので、用水の歴史というときに、用水を流して農地を潤したということだけでなく、用水がその流域環境を担ってきたと考えて歴史を書いてきました。昨年、愛知用水は通水開始

60周年という還暦を迎えたわけですが、愛知用水の構想・計画・建設・改修といった現在に至るまでの貴重な文献等資料が散逸している状況を踏まえ、これらの資料を愛知用水歴史資料として整理し後世に引き継いでいきたいというお話が愛知・豊川用水振興協会からあり、現在その作業にあたっております。用水はただ水が流れるということではないという思いは、『愛知用水新聞』（1952年2月1日発行）創刊の辞にも「水と共に文化を流さん」とあり、これは水資源機構のこの広報誌名にもつながっていますね。愛知用水を通じて自分たちの暮らし全てを変えていこうとする取組がなされていたということです。私が取り組んできた枝下用水（しだれ）の歴史は130年あります。60年の愛知用水は枝下用水とどこが違うのかという、愛知用水は今まだ水が初めて流れたときの感動を話す方がいらつしやるということです。そしていろいろな機会に愛知用水についての座談会などが行われています。いろんな人が語っていくと、話は作られていってしまうときもあります。例えば久野さんと浜島さんの出会いは、愛知用水の構想が書かれた新聞を見た浜島さんが久野さん宅に駆けつけたという話ですけれど、浜島さんご自身が、駆けつけた一番初めは山本さんのお父さんで知多農村同志会のメンバーであった孝平さんだったと話しています。知多農村同志会の愛知用水運動の姿など、変わっていつてしまうことのない



よう、歴史資料の整理をしていきたいと思っています。
副理事長 続いて山本組合長、今お話がありました地元の先人の苦労・努力の面も含めましてコメントをお願いいたします。

山本組合長 小さい子供の頃のうろ覚えしかないのですが、家に来た久野庄太郎さんや多くの人たちは、苦勞していた人たちというより夢を追いかけていた人たちだったという記憶が私にはすぐあります。今の自分たちには、そういう夢を追いかめるということが少なくなっているという気がしますので、うらやましく感じているところがあります。そういう意味で言う親父たちはいい時代に生きていたなという気がしますね。そういう夢を引き継いで何をしなくちゃいかなのかなというのが、今の自分の今までの課題でもありましたし、今から自分が生きていく中で何をやっていくのかというのを目標にしていきたいですね。

愛知用水の成果と先進的取組

副理事長 次に愛知用水の成果について話題に

したいと思います。愛知用水の農業用水の受益地は、ご存じのとおり知多半島を中心に約一万五千haございまして、稲作のほかにも高収益な野菜、果物、観葉植物や花きなどの園芸作物の栽培等が地域農業を支えております。それでは、山本組合長、愛知用水を踏まえた農業面での先進的な取組についてご紹介をお願いします。

山本組合長 平成19年から始まりました農地・

水・環境保全向上対策事業というのがありまして、あれに一番最初に私は飛びついたので、というの、愛知用水は幹線や支線までは機構や土地改良区が管理しており、更にそこから先の末端の水路施設までしっかり維持・管理しないと愛知用水の水、木曽川の水が農地に入らないことになるんです。貴重な水なので一滴も漏らしたくないんです。しかし、愛知用水の一番末端である水路施設が古くなって漏水したりとかちよつと直したりしなくちゃいかなところがたくさん出てきており、耕作放棄地もたくさん出てきたりするというところで、やはり集落をもう一度リニューアルしなくちゃいかなという思いがあり、集落単位で農家外の人たちの参画も得て末端の水路施設の維持・管理を行う取組に対し支援する農地・水・環境保全向上対策に真っ先に取り組みしました。集落の農家の数もどんどん減っていく中で、農家外の人たちを取り込んで、農業のファン作りをしていかなくちゃいかなということも踏まえて取り組

んでいます。また、新規就農の人たちを10人くらいうちの集落に入れて、15ヘクタールぐらいやってもらっているんですけど、この人だと最後までやっていけるなという人も何人か出てきて、将来を託せるかなという人たちもいます。親父たちの夢をそのまま地域の活性化のためにつなぐというのも夢のバトンをつなぐことだと思っております。

副理事長 私が農水省で課長補佐のときに、この農地・水・環境保全向上対策にかかる予算要求と制度設計を担当しておりました。最終的には水つながりやで末端の水路施設をみんなですっきり守っていくということ、より地域を活性化させようということ、を制度の根幹に織り込みましたので、当時思い描いたようなことをしっかりとやっていただいていると感じました。

山本組合長 実は水路の管が噴水のように噴いてしまつて、業者に修繕を頼んだら百万円かかると言われて、そんな金うちの集落にもないしなと困っていたところ、管の修繕にも使える事業というところだったので、一番に手を上げました。

副理事長 木曽川の水は、幹線水路だけではなくて、ほ場まわりの水路もきちんと機能してようやくほ場まで届けられるということなので、末端水路をしっかりと地域で守っていただくということは重要と当時より思っておりました。山本組合長が言われるように、愛知用水の末端水路を地域で守っていくことの重要性をそこまで



浜井戸から水を運ぶ主婦たち

知多半島の暮らしを豊かにした愛知用水

副理事長 愛知用水は、水道用水や工業用水の供給の面でも大きく貢献しております。民間有志による愛知用水の当初の計画は農業用水の供給ということでしたが、や

はり当時のアメリカのTV A計画の構想にヒントを得て、木曽川総合開発の一環として多目的事業構想に至りまして、愛知県を事業主体とした水道用水、工業用水も参加をする形でスタートしております。知多半島は大きな川がなく、昔から水不足に悩んでいた地域で、半島の南端にある師崎^{もろざき}では、私も一度その井戸を見に行ったことがありますが、昭和20年代に水質が悪く「浜井戸」と呼ばれるたつた一カ所の共同井戸だけしか利用ができないなかで、毎日3度の水汲みが主婦の皆さんの重要な仕事となるなど、生活用水の確保に大変苦勞されていたと聞いております。しかしながら愛知用水完成後は、浄水場で浄化された水道水が知多半島のほか春日井市、瀬戸市などにも供給されるようになり、今では約90万人が利用



しており、地域の生活環境の改善に大きく貢献しております。工業用水の供給においては、名古屋市南部の受益地である工業地帯に多くの重化学工業や火力発電所が進出した結果、製造品出荷

愛知用水の今後の展開と 機構に対する期待

副理事長 最後に愛知用水の今後の展開について話題にしたいと思います。愛知用水は、老朽化した施設の改築等を内容とする二期事業が完了してからかなり年数が経ってまいりました。長大な開水路や大規模なパイプラインの建設による水の安定供給を実現させた後に、農地面積もかなり減つてますし、水需要も変化しつつあります。よくあるケースでは、稲作をかなり前倒しすること、早い時期から農業用水が必要となるような用水の使用時期の変更への対応や、特に支線水路の老朽化に対応するための事業などを今後いろいろ考えていかなければいけないという状況です。それで、令和3年度、4年度予算では、いろいろな事業制度の変更等により、支線水路について今後機構でしっかり改築工事をできるようになりましたので、今後老朽化したところとか耐震化できていないところへの対応、それともう一つは水需要の変化に合わせた形で新たな事業展開を進めていこうと思っています。なお、5月に明治用水頭首工で大規模な漏水事故がありました。機構も同じような堰を管理しているということもあり、やはり用水施設の適切な管理の重要性というのは他人事ではないということで再認識したところです。そういう意味で、日常的な管理の中

額が、2019年（令和元年）には1963年と比較して17倍、約5.5兆円となり、愛知用水が地域経済の飛躍的發展を支えています。水の使い方も時代の背景によりまして農業用水としての利用から水道用・工業用の都市用水としての利用への転換が顕著になりまして、1963年度には農業用水利用が65%を占めていましたが、2019年度には水道用・工業用の都市用水としての利用が約8割となっており、さらに、2019年度までに全体で約226億m³の用水を供給しており、そういう意味で愛知用水が地域の産業と生活を支える大動脈となっています。

山本組合長にお伺いします。私の実家も三重県で農業と林業をやっていますが、米と野菜を作って農業だけで年間売上げ200万円ぐらいです。一方、愛知県の渥美半島の農家は家に車が家族分あって、何千万も売上げがあるとの話を聞いて、すごいうらやましいなと思っていたのですが、やっぱり知多半島に愛知用水の水が来るようになってからは、農家の皆さんはかなり豊かになったのでしょうか。

山本組合長 知多半島は温暖な気候で、水に恵まれ、農業が盛んな地域です。JAあいち知多の農畜産物の取扱額は105億円ほどあり、農業に頑張っています。また、知多半島は、交通の便が良く、名古屋はじめ、三河方面への通勤も便利な地域で、農家が農外収入を得やすい環境でもあり、知多



では今、しっかりとした巡視や点検をやっておりますが、引き続き施設の点検をしっかりと行っていくて、適切に施設の機能を維持するような取組、いわゆるストックマネジメントを進めていこうと思っております。

す。また、機構でもDX、最近はやりのデジタルトランスフォーメーションも検討しております。最近燃油代とかが高くなってきた中で水代もそんなに高くしてはいけないという考えの下で効率化した管理をしていこうと思っております。それと、令和3年度に愛知用水通水60周年を迎えたということ、今年が愛知用水土地改良区の設立70周年ということですので、通水50周年のときに開催されました「水源地感謝祭」では、水源地域の保全に資する活動を深め、今後も上下流の「水の絆」を守り続けることをうたった「水の絆宣言」が採択されております。機構としましても、この宣言に基づきまして、水源地域で植樹とか育樹活動を行っており、今後とも水源地域の保全にもしっかり取り組んでいきたいと考えております。

半島は、いいところだといわれる方がいますね。

副理事長 愛知用水の水が来たことで、農業でもある程度稼げるようになったし、水道用水が供給されることで生活も豊かになって、更に工業用水供給により工場が進出し多くの人が働けるということ、知多半島はバランスのとれた発展をしたのではないかと印象を受けています。

ちなみに、もともと知多半島では主婦の皆さんが一日3回井戸で水汲みをしていたことを考えると、愛知用水によりその地域の女性の暮らしぶりが文化的にもすぐ変わってきたのでしょうか。

達研究員 師崎の「浜井戸」は私も見に行ったことがあります。愛知用水通水以前の浜井戸の「主婦の水くみ」と題された写真は、女性の仕事の苦勞を知るものとして度々使われていますね。水道が引かれ、蛇口を捻ればきれいな水が確保できるようになって、毎日何時間もかけて水を汲みに行っていた重労働から解放されたことは、女性の一日の生活・活動を大きく変えたと思います。水をきつかけにした家事労働からの解放が、女性の労働環境・生活環境を少しずつ改善していったと思います。いまだ女性の家事労働負担の問題はありますが、現在では農業や漁業などの家業への積極的な参画が可能となり、経営面でのパートナーとして活躍するなど、女性の地位の向上にも大きく貢献していると考えられます。

す。それでは、山本組合長、達さん、機構に対する今後の期待について、コメントをよろしく願います。

山本組合長 やはり新規就農者の定着を図るためにも、農業用水の通水期間が稲作向けの5月から9月までということでは、冬季通水、通年通水が必要とする高収益を求める園芸等では十分な利用ができないというところもあるという認識を持ってもらいたいなと思います。それと緑の食料システム戦略が去年5月に策定されまして、2050年までに耕地面積の4分の1の100万haを有機農業にするだとか、化学肥料を3割カット、化学農薬を2分の1にするという目標が立てられており、若干現場にはとまどいがあります。まあ、今から地域の農業がどう変わっていくのか、その変わっていくために何が必要なのかなっていうことを今から自分達もしっかり考えていかなきゃいかんなと思っております。

達研究員 今日は山本さんがたくさん写真をもつてきてくださって感激しました。なかでもこの写真は堀田稻荷神社でおこなわれた山崎延吉（農政家で愛知県の農業改善に力を尽くされた方）の喜寿祝いの記念写真で、愛知用水土地改良区でも浜島さんから寄贈され保存されています。『愛知用水史』では、この写真はトリミングされ、昭和23年8月7日の知多農村同志会の愛知用水祈願祭の写真ということになっています。ところが



昭和24年3月7日 山崎延吉氏の喜寿祝いの記念写真(堀田稲荷神社) 愛知用水土地改良区提供

前列着席中央が山崎氏、山崎氏の後ろ2人目の左側(真ん中の列一番左)が山本組合長のご尊父 山本孝平氏

写真左上の語句は「七十七 丑年 我農生(山崎氏の雅号)」

服装が真冬の格好なんです。山崎延吉の日記にあたってみるところ、これは昭和24年3月7日の撮影だとわかりました。この日、熱田駅でみぞれが降ったと日記に書いてありました。なぜこの写真が愛知用水祈願祭のものとしたのか。当時は写真を撮る機会が少なく、知多農村同志会のメンバーが集まった写真とすることで使ったのだろうと思います。この写真から、農聖といわれた山崎延吉と知多農村同志会と愛知用水との関係が分かります。

同志会の方たちを出発点として、それを取り巻くたくさんの人たちがおり、いろんな方々と交差し、そのあと愛知用水運動は水資源機構のような大きなところに委ねられていったということですね。

山本組合長 たぶんトップダウンでやれって言われるとなかなか難しいだろうけど、ボトムアップでやりますよね、みんながね、だからそこがすごい。同じ夢をみながらみんながやっていたわけでしょ。それはすごいなというふうに思いますね。

達研究員 愛知用水の説明会とだけ言ったのでは人は集まらない、浪曲や映画で人を集め、そのあと説明会を開くなど、工夫を重ねて説明会を頻繁におこなっています。『愛知用水新聞』には、野間町農村同志会が劇場を借り切って、1000人近い人たちに人気映画を見せ、そのあと用水の説明会を開いていることが記録されています。そういうことをやっていたんですね。

副理事長 お話を伺うと、歴史はしっかり事実を正しくみんなに伝えていくということ、機構としても事実をしっかり整理して発信していくというところが、極めて重要だと思いました。ホームページでも、それぞれの用水の歴史をもう少ししっかりと発信していくかという話も機構の中でもあるのですが、改めてそういう重要性が分かりました。それと、もう一つ思ったのは実際に水路とかダムを造ったのは愛知用水公団ですけど、それに

至った地域の皆さんの情熱が非常に重要だなというのを改めて思いました。昔中国にいたことがあり、そのときに中国では井戸を掘った人への感謝を忘れるなということを聞きましたが、やはり一旦水が来たらそういう先人の努力とか感謝が忘れられてしまう可能性もあるので、先人たちが、地域で映画を流した後に事業の説明をして地域の合意を取り付けていたということもしっかり伝えていって、愛知用水の重要性を改めて認識してもらおうというのは、非常に大切なことだなと思いました。機構としても、今回機構60年記念ということで、対談させていただいた内容をしっかり広報誌で発信をしていきたいというふうに思いました。あとは、実際に水を使っていたという方々に、より適切に水を使っていたるように、冬水の確保とか、そういう水の需要の変化に対する対応を今後の事業の中で、対応できるかどうかも含めてしっかり調査を進めていきたいと思っています。それと機構は、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」というような経営理念を掲げており、利水者の皆様、ひいては国民の皆様のニーズに絶えず耳を傾ける組織運営に心がけていくというふうなことをホームページにうたっております。安くですから、いわゆる管理費が上がらないように我々も努力していつて、いろんな水の需要にも対応できるようにしっかりと努力していきたいと考えており、それとやはり井戸を掘った人への感謝を



オークションに愛知用水水利観音が出ているのをみつけ、入手したんです。関東の骨董屋さんから出てきたものでした。用水工事で犠牲となった方や関係者に手渡されたという愛知用水水利観音がオークションに出されてしまう時代に入ったのだと思いました。私たちが水を使うとき、この水にはこういう歴史があつていまここに流れていると分かるだけで、随分私たちの暮らしに豊かさを与えてくれるのではないかなと思います。ちょうど今年還暦を迎える水資源機構で、しつこくても先ほどの山本さんの取組などを発信していくことが必要ではないかと思っています。還暦というのは、歴史を語る岐路なのかなと感じています。水資源機構がなぜ水源で感謝祭をするのか、私たちはもっと知っておきたいし、こういう場を作っていただけで本当に今日はよかったと思っています。知多農村

忘れないように情報発信をしていきたいと今日話をさせていただいて改めて認識した次第です。

山本組合長 特に今から農地中間管理機構により、農地集積がすごく進んでいきますので、当然、耕作者から見るとほんとに少しでも高いとコストに合わないということになり、離農したりすることもあるので、少なくとも日本では安い潤沢な水を供給してもらえんということがありがたいなと思います。今からの日本の中の農業、今後どう変わっていくのか分からないところもあるんですけど、水はその中心にあると思いますので、しっかりとした供給をお願いしたいと思います。

副理事長 ありがとうございます。それでは、これで対談を終わらせていただきます。長時間ありがとうございました。

